

防災学習は2つの道に分かれます。一つは地学と地理学がオーバークラップする自然の営みを学ぶこと、もう一つは土木・建築などの工学系の分野を学ぶことです。ところが国内では、前者の学習が十分とは言えません。

地理学では自分の住んでいる地域の人口や産業は調べますが、そこがどういふ地学的現象でできているところなのか、過去の地震や水害はどうだったのかを調べる学習は少ない。こういう学習はそのまま地学分野にリンクしていて、郷土を知る中

名古屋大学地震火山
研究センター長

山岡耕春氏



地学的現象や災害史 郷土知る学習が重要

でごく自然に土地、歴史や災害史について知ることができるとのことです。災害があるたびに「生まれてこの方経験がない」といった被災者のイ

その未来は明日かもしれないし、100年後かもしれない。例えば扇状地が土石流という自然現象の繰り返しで形成されていることからわか

トするべきで、ローカルであるべきです。その土地に合わせた、「どうしたらいいの」という問いと答えがあるのですから。

インタビュが記事になります。当り前のことです。巨大災害はそうそう同じ所では起こりません。しかし災害は過去に起きたことは未来に

るように、そういう土地では必ずこれからも土石流が起こる、これを認識する必要があります。そうした視点に立てば、身の回りを調べることから防災教育はスター

災害・防災文化はまだまだ低いレベルにあります。事故は起こるものという前提で車も鉄道も造られます。同じように自然に向き合い、「安全に完全はない」「安全でない場所に目を背けていないか」といったことを常に心にとめて、運を天に任せない自助への一層の努力が必要です。

(防災教育推進協会理事長)